

## 3. 教養教育の学び

### 3-1 導入教育科目

導入教育とは高等学校から大学への円滑な移行を促すことや、入学後の教育効果をより高めることを目的とした、正規課程に付随した教育プログラムをいいます。

岡山大学では、導入教育として以下の「全学ガイダンス」「学部ガイダンス」「補習教育」を設定しています。

#### 「ガイダンス」

##### 1) 全学ガイダンス（「岡山大学入門講座」）

学部に関係なく、これから本学で学び社会へ羽ばたくために、初年次に修得する全学必修科目です。岡山大学生としてスタートするために必要な知識を得るための「岡山大学入門講座」があります。

##### 2) 学部ガイダンス

各学部が所属学生を対象として開講するもので、大学で主体的かつ能動的に学ぶために必要なスタディ・スキルやコミュニケーション・スキルを学修します。

「学部ガイダンス」は、各学部あるいは学科・課程・コース単位に当該学部所属学生を対象として開講するもので、他学部学生は履修できません。

#### 「補習教育」

高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図るための補習教育として、「初等数学1」「初等数学2」「初等物理学1」「初等物理学2」「初等生物学1」「初等生物学2」の6科目を開講します。これらの科目は卒業要件単位外の授業科目として取り扱うため、GPA制・上限制の対象とはしませんが、授業の効果を検証するために授業評価アンケートの対象とします。

高等学校において数学Ⅲ、物理、生物の未履修者及びこれらの科目の習熟度に不安を感じている方を対象とします。

### 3-2 知的理解科目

現代世界が提示する多様な諸問題への関心呼び起こし、人類が過去から蓄積してきた知の拠り所への学び(古典知)を通じて、自らと世界とのかかわりを常に生き生きと把握する知的理解力を養います。講義科目には、現代的問題に焦点を合わせた科目と、より広範な基礎的テーマの科目を設定しています。なお、知的理解科目の中に次の3つのグループを設定しています。

#### 「現代と社会」

社会のグローバル化のもとに、急激に変貌する現代社会の具体的実像に触れる。とりわけ、政治・経済・社会・文化・思想・宗教等の分野で進行する知識の断片化を克服し、現代社会の全体像を理解する。

#### 「現代と生命」

科学技術の急速な進歩による生命科学の最先端分野での発展を、その研究の歴史的展開を踏まえて具体的に理解する。また、医療生命科学分野の全体像を把握する。

#### 「現代と自然」

科学技術の急速な進展と自然界の解明の現状を理解する。また、人間による自然環境破壊と環境再生の実像に触れ、自然に対する全体的・原理的理解に努める。

### 3-3 実践知・感性科目

時代と社会をリードする行動力と創造力を生み出し、豊かな感性を育むために、実践知と芸術知を養います。

### 3. 教養教育の学び

#### 「実践知」

##### 1) 実践型社会連携教育科目

地域社会の企業、行政、NPO、まちづくり等が直面する様々な課題を取り上げ、その解決のために必要な実践知（市民的教養に裏付けられた判断力、リーダーシップ、チーム力、責任・気概）を養います。実社会の様々な関係者と協働して活動し、問題発見や解決のための技能や態度、素養を培うことができます。

学外の現場での活動を実施する場合、時間割に設定されていない時間帯（土日祝など）に授業時間を振り替えたり、学外での正課活動に関する保険への加入を履修要件としたりしていることがあるので留意してください。また、グループワークを重視する科目では、一定人数の受講登録がなければ閉講になることがあります。現場で受け入れてくれる関係者、チームのメンバーに迷惑がかからぬよう、最後までやり抜くことがなにより重要です。

##### 2) 科目のタイプ分け

実践型社会連携教育科目は、その内容によりいくつかのタイプに分けられます。タイプ分けは、1) 社会連携した実践活動の度合い（それに充当する時間数など）、2) その科目の学習環境がグローバルであるか、で判断します。

次表のとおり、全授業時間のうち現場での実践活動の時間の多いものが「Aタイプ」、少ないものが「Bタイプ」となり、さらに、学修する環境が外国や、国内であっても外国人コミュニティで学ぶといった異文化体験の深さにより、A及びBにG（グローバル）またはG+を冠しています。A、B及びG、G+の組み合わせにより、以下に示す①から⑦のタイプがあり、シラバスの授業形態欄に明記されています。タイプの特性を理解したうえで履修計画を立ててください。

◆ シラバスの「授業形態欄」には、以下のいずれかが表示されています。

「該当せず」

- ①Aタイプ（社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い）
- ②Bタイプ（社会連携の実践活動を一部取り入れている）
- ③G+Aタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くAタイプ）
- ④G Aタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するAタイプ）
- ⑤G+Bタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くBタイプ）
- ⑥G Bタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するBタイプ）
- ⑦Cタイプ（実習や演習として実践的だが社会連携したものでない）

表. タイプ分けの基本

判断基準	記号	解説
社会連携した実践活動の度合い	A	a) 地域や企業等の現場に出向き、 b) その時間数が全授業時間数の1/3以上 c) 成果報告会を開催する（学外の関係者が参加し、授業自体の評価をすることが望ましい） の3条件を満たす。
	B	地域や企業等の現場に出向く、または現場の課題を抱える当事者とのディスカッション等の活動が1回以上ある。ただし、単に外部講師が講義するだけの授業は対象としない。
学修環境としてのグローバル要素の付加	G+	社会連携して学修する現場が外国または国内の外国人コミュニティであるなど、異文化の環境に深く入っていく授業。
	G	留学生と日本人学生が協同することにより異文化理解を進めつつ学ぶ授業、海外とのオンライン会議など多言語で討論が行われる授業など。

## 3. 教養教育の学び

### 「芸術知」

「芸術知」は「実践知・感性」関連の授業科目であり、教養教育科目授業時間及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。この科目群は、優れた芸術作品の能動的な鑑賞やアート創造の現場への参加等を通して、創造性と豊かな感性を養います。

### 3 - 4 汎用的技能と健康科目

学問の追求に加えて、学生生活を充実させて社会へ向かうために必要な知識・技術及び能力を養います。また、これらの土台ともいえる健全な心身を築きます。

### 「情報教育」

大学教育における研究や教育をはじめ、社会人として必須である情報リテラシー技術やICT (Information & Communication Technology) 活用能力を修得します。

#### 1) 情報リテラシー系科目

「情報処理入門（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門2（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門3（情報機器の操作を含む）」では、情報化社会においてインターネットを有効に活用するための知識、情報セキュリティ被害にあわないためのセキュリティ対応能力、個人情報漏洩防止のための知識などの幅広い情報リテラシー能力と正しい情報マナーを身につけることを学びます。

上記の科目は、授業における課題の提供や小テストの実施、事前、事後の学習に授業支援システム“Moodle”を利用します。また、すべて実習を伴い、個人所有のPCを使用します。

情報リテラシー科目のうち、「情報処理入門（情報機器の操作を含む）」は必修科目です。この授業科目は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。

本科目は教職課程で必須の科目であり、最低2科目、2単位の取得が必要になります。

#### 2) ICT (Information & Communication Technology) 系科目

ICT系科目は、インターネットの安全・安心な活用、情報機器の効率的な活用のための知識が修得できます。

ICT系科目は、情報リテラシー系科目を発展した、より高度な技術を学習します。主に1年次と2年次に向けて開講します。

### 「数理・データサイエンス」

数理・データサイエンス科目のうち、「数理・データサイエンスの基礎」は、現代の基礎教養として欠かせない情報学・統計学・数理科学の3つを体系的に学ぶためのものであり、授業では、データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎と、データサイエンスの応用事例を修得し、さらに機械学習の概念を学んで、データサイエンスの果たす役割を概観します。この科目に関連した「数理・データサイエンスの基礎演習A」では実際にソフトウェアを利用し基礎で学んだ概念を学びます。また、「データ表現とアルゴリズム」ではデータサイエンスに必要な数理的な知識、アルゴリズムの基礎知識についてソフトウェアを利用しながら学びます。

さらに「統計学の基礎」と「データ分析の基礎」が開講されており統計学の基礎を学びます。また、「数理という道具を手に入れよう」では、数学がどのように有用な道具になりうるかを体験的に学びます。

数理・データサイエンス科目のうち、「数理・データサイエンスの基礎」は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。

## 3. 教養教育の学び

### 「キャリア教育」

学生生活を充実させるとともに、社会人になるうえで必要な知識・能力を修得します。

特に「キャリアデザイン」という複数のテーマ別授業科目があります。大学生が主体的にキャリア形成を行ううえで必要な知識やスキルを身につけるための「Ⅰ. キャリア形成基礎」、社会で求められる基本的なビジネススキルについて学ぶ「Ⅱ. ビジネススキル入門」、企業や業界に関する知識を獲得して将来設計に生かすための「Ⅲ. 企業を知り、業界を知る」などで構成されています。

### 「健康・スポーツ科学」

生命・保健科学関連の授業科目で、教養教育科目授業時間表及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。

#### 1) 健康・スポーツ科学

健康・スポーツ科学は講義月曜9限に開講します。昼間開講の健康・スポーツ科学は抽選があり、1～4学期に指定された時限で開講します。

健康・スポーツ科学Cは抽選がなく、通年授業で、毎月1回、水曜日10、11限に開講するスポーツ医科学の専門家によるオムニバス形式の授業です。本授業は教育職員免許状取得に関係しません。

#### 2) するスポーツ演習 ※抽選あり

「するスポーツ演習」は、通常時間帯のスポーツ実技に加えて、各自がMoodleを活用した学びから運動プログラムを作成し、授業以外においても運動を実践する授業です。本授業は教育職員免許状取得のために必要な科目です。

#### 3) みるスポーツ演習 ※抽選あり

「みるスポーツ演習」は、みるスポーツに関わる調査研究テーマを履修者が設定し、テーマに基づきグループを編成し、調査計画を立案し、実際に調査に出かけ、報告書をまとめます。

### 「アカデミック・ライティング」

ライティングは、専攻分野を問わず、すべての知的活動の基本的な技量、コミュニケーション能力となります。さらに、学術的な場面のみならず、学内外の日常的な場面においても中核となる能力です。したがって、ライティングにより獲得される思考力とコミュニケーション能力は、大学を離れたのちにも生涯を通して極めて重要な拠り所となるものと考えられます。

アカデミック・ライティングでは、論文やレポートを書くための技量のみではなく、思考力を伸ばしたり論理的に表現したりすることを学び、自分で論理的に思考したことを書くことにより表現するコミュニケーション能力を養うことを目的としています。

この科目では、以下のように論証型論文・レポートの基礎を理解し実践できるようになることを目標としています。

- ・自分の考えや意見などを正確に、意図した相手に伝える文章を書くことができる。
- ・事実や根拠などを明らかにした論理的な文章を書くことができる。
- ・文字や表記に注意して文章の体裁を整えることができる。

これらのライティングの能力は、教員の細やかな指導と学生の書き直しをする反復作業によってゆつくりと醸成されます。そこでは教員・学生間の対話と信頼関係が必要であり、ディスカッションや相互評価が不可欠な活動となります。

## 3-5 言語科目

言語の深い修得を通じて、言語の持つ価値や世界観を理解し、グローバル社会を洞察する力や社会に情

### 3. 教養教育の学び

報を発信するコミュニケーション力を養います。

#### 「英語」

英語には、英語（ネイティブ）、種別英語、基礎英語、プレ上級英語、上級英語があり、各学部学科の卒業要件に従って履修することになります。

##### 1) 英語（ネイティブ）

英語（ネイティブ）は、1年次に開講されます。ネイティブスピーカーが英語のみで行う授業で、英語コミュニケーション能力を身につける機会を提供します。

単位未修得による再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

##### 2) 種別英語

種別英語は、英語教員が担当する授業で、2年次に開講され、4種別があります。一度履修し、単位未修得となった場合の再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

授業科目名	授業概要
英語（オラコン）	英語のオーラルコミュニケーション（リスニング、スピーキング）能力を伸ばすことを目的とします。ディクテーション、コンプリヘンション、ディベート、ディスカッション等の幅広い内容があります。教材としては、テレビ・ラジオのニュース、映画等も含まれます。
英語（作文・文法）	既習の文法事項を復習し、定着させつつ、英語による表現能力の向上をはかることを目的とします。 論文、エッセイ、手紙、E-mail等の書き方から日常会話に近い口語的表現の指導までが含まれます。
英語（読解）	人文分野、社会分野及び自然分野の教材を用いて、英語を読む能力を磨くことを目的とします。教材としては、言語、歴史、異文化理解、社会科学、自然科学等に関するエッセイやインターネット上の情報、あるいは新聞、雑誌等の時事英語、科学技術英語や医療英語の教科書等も含まれます。
英語（検定）	実用英語検定、TOEIC、TOEFL等、外部検定試験に合わせた練習を行い、実用的な英語力の養成を目的とします。教材としては、これらの試験に対応した問題集等も含まれます。

##### 3) プレ上級英語、上級英語 ※ 同一科目の繰り返し履修可

プレ上級英語、上級英語は、学力はあるがもう一度英語を学び直したい学生を含め、ステップアップを目指す学生のために発展的な内容を教えることをねらいとしています。

履修を希望する学生は、必ず最初の授業に出席し、担当教員から履修の許可を受けてください。

#### 「初修外国語」

・初修外国語科目（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

初めて学ぶ外国語では、4つの言語が昼間に開講されています。

ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語

##### 1) ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語初級

授業時間表の火曜日又は金曜日に開講される「初級」授業を履修してください。原則として第1学期から第4学期まで同一クラス、つまり同一科目・担当教員の授業科目（第1学期＝初級Ⅰ-1、第2学期＝初級Ⅰ-2、第3学期＝初級Ⅱ-1、第4学期＝初級Ⅱ-2）を履修してください。

## 3. 教養教育の学び

---

2) 中級 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。

履修を希望する者は、初回の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

・言語文化入門科目

言語文化入門科目は抽選科目です。履修希望者は時間割を確認の上、所定の期間内に抽選登録を行ってください。開講科目は次の通りです。

【フランス語圏文化】

「フランス概論（言語と歴史）」

「フランス概論（言語と文化）」

【スペイン語圏文化】

「スペイン語圏の文化と社会（スペイン）」

「スペイン語圏の文化と社会（ラテンアメリカ）」

【ロシア語圏文化】

「演劇から見るロシアの人々（ロシアの社会と演劇）」

「演劇から見るロシアの人々（ロシア演劇を読み解く）」

「物語から見るロシアの人々（ロシアの歴史と物語）」

「物語から見るロシアの人々（ロシアの物語を読み解く）」

【イタリア語圏文化】

「イタリアの社会と言語から日本を考える」

「イタリアの教育と言語から日本を考える」

「イタリアの食文化と言語から日本を考える」

「イタリアの芸術と言語から日本を考える」

### 3 - 6 高年次教養科目

専門的素養を習得した3, 4年次生（高年次生）に対して、専門教育以外に必要とされる知識や能力を与える教養教育科目を高年次教養科目として設定し、学生の習熟度と関心に応じた段階的教養教育を実施します。

高年次教養科目の授業は、基本的に各学部の専門教育の時間帯に実施されます。